

中学生版 テーマ7 いじめのない社会へ - 保護者にできることは -	
【ねらい】 ◇いじめ問題は、それに関わりのある子どもや保護者、あるいは学校だけの問題ではなく、社会全体の問題であることを確認し合い、保護者として何ができるかということについて共に考え、共に行動しようとする意識を高める。	
【活動の流れと支援のポイント】	
1 自己紹介 および アイスブレイク	○4～5人のグループをつくり、自己紹介をする。 (10人までであれば全体で話してもよい) ○グループ編成の時には下記のような工夫をする。 ・誕生日順、ジャンケンで3回勝った順などで一重円になり人数ごとに区切る。 ・トランプやくじ引きを利用し班を決定する。 ○簡単な名札や席札をつくり、名前を覚えやすいようにする。 ○グループ内で進行役、記録役、発表役を各一人決める。
2 事例からテーマについて知る	○ワークシートの始めの文および中3生徒の作文を読み、感想やいじめをなくすために保護者ができることについて考えることをワークシート1の欄に記入する。
3 語り合いの約束を確認する	○語り合いに入る前に、約束を確認する。 ・ここだけの話にする。(個人情報に関することについて) ・相手の考えを頭ごなしに否定しない。 ・自分だけが長く話しすぎない。 ・発言を強要しない。
4 語り合い活動	○自分が書いたことをグループ内で伝え合う。 ・まず感想を語り合うことからはじめ、いじめをなくすために保護者のできることについて考えを広げていく。 ・お互いの意見に共感し合うように進行する。 ○話し合いから気づいたことや参考となったことを記入する。 ・時間に余裕があれば、数人に発表してもらおう。
5 まとめ	○語り合いのまとめをする。 ・いくつかのグループに別れて話し合った場合は、グループで出てきたことを交流し合いできるだけ多くの考えに接することができるようにする。
6 ふりかえり	○話し合った内容をふりかえり、互いにお礼を言って話し合いを閉じる。

【参考資料】

いじめ早期発見チェックポイント

☆子どものSOSをキャッチしましょう☆

チェックしてみましょう

- 表情がさえず、おどおどした様子が見られる。
- 持ち物をひんぱんになくしてくる。
- 教科書やノートにいたずらをされて帰ってくる。
- いろいろと理由をつけて、お金をたびたび要求される。
- 衣服を汚してきたり、あざや傷をつけてきたりする。
- 家族の些細な言葉にイライラしたり、反抗したりする。
- 登園・登校をしぶったり、早退や欠席が多くなる。
- 家族を避け、何か隠しているような気配が感じられる。
- TVゲームなどの一人遊びに夢中になり、外出が少なくなる。
- よく電話がかかってきて、困っている様子がうかがえる。
- 体のあざや傷を隠すため、お風呂に入るのを嫌がるようになる。
- 学習意欲をなくし、学校の成績が急に悪くなる。
- 頭痛・腹痛などをよく訴えるが、特に異常はない。

【滋賀県教育委員会「ストップいじめアクションプラン」より】

○子どもに話を聞くときのポイント

※まずは口をはさまずに聴くことに徹しましょう。

◎日頃から話しやすい雰囲気づくりを

いじめのことだけでなく、本音で話ができる関係をつくっておきたい。親の期待の大きさを感じていたり、良い子を演じていなければ親に愛されないと考えている子どもは、自分の弱みを親や教師に見せられない。

◎ありのままを受け止める

いじめっ子のタイプ、いじめられっ子のタイプという思い込みや先入観は捨てる。同じ話の繰り返しでも、本人の気がすむまで話させる。(別のことを思い出したり、問題を客観的に見られるようになることもある。)

◎共感的に受け止める

「そんなことくらい」と軽く見ない。すべてを話していないこともある。また、心の痛みは本人にしかわからない。(たとえ口だけのいじめでも、大勢から、毎日のように繰り返されれば、精神的に追い詰められる。精神が健康なときには、笑っていられる言葉も心身共に弱っているときには、大きな打撃となる。)

相手の身になって考え、「私はあなたの味方だよ。」ということをしかりと伝えることが大事。

【WAVE 出版「わが子はいじめから守る10ヶ条」NPO法人ジェントルハートプロジェクトより抜粋】